

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	「好き・書く・体力」をさらに深化していく	<ul style="list-style-type: none"> ○「好き」になる授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○「好き」になる授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ・学びのシンポジウム実施 ・小小授業連携 ○「書く」活動を全教科で <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○「体力づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●グローイングアッププラン3年間の総括・検証 ○「好き」になる授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・太田小・西河原小・太田中公開授業 ・小小授業連携 ○「書く」活動を全教科で <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究 ○他教科・校種間連携 <ul style="list-style-type: none"> ・1つの教科にとらわれず、様々な教科や分野で連携を深める。 ○「体力づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン ○事務の共同実施
確かな学力の育成	意欲的に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同授業研や公開授業・校内研修 ・「好き」といえる生徒の姿の研究 ・各教科における「書く機会」の設定 ・ユニバーサルデザインに基づく授業づくり ・生徒主体の授業づくり・朝の読書 ・基礎・基本の定着・家庭学習の定着 ・長期休暇を利用した学習指導 	グローイングアップ3か年計画の中間総括と計画の見直し	グローイングアップ3か年計画の総括と検証
豊かな人間性を育む	進路を切り拓くために必要な力をつける	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育・人権教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・行事や集団作りなど、生徒の活動に生かせる道徳教育の推進 ○キャリア教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・進路を自分で切り拓くために必要な力について検討する。 ・「自立」を促すしかけをつくる。 ○豊かな人間性を育む教育 <ul style="list-style-type: none"> ・他者理解や福祉体験の取組みを系統立てて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教科化に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・多様な指導方法による授業づくりの模索 ・道徳科評価について ○キャリア教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて必要な力をつける取り組みを見直す。（「計画力」をテーマに） ○豊かな人間性を育む教育 <ul style="list-style-type: none"> ・他者理解や福祉体験の取組みを系統立てて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科としての道徳教育 <ul style="list-style-type: none"> ・「考える道徳」「議論する道徳」 ○キャリア教育の推進・実践 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までに取り組んだことを、意識して実践し検証する。 ○豊かな人間性を育む教育 <ul style="list-style-type: none"> ・他者理解や福祉体験の取組みを系統立てて行う。
健康・体力の増進	いろんな種目にふれる・やってみる！ 苦手でも好き！生涯にわたって、	<ul style="list-style-type: none"> ●苦手・好きを知るためにやってみる《課題発見》 ・体力テストの実施と分析 ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」5分間走の実施。 ・小学生へのクラブ体験と出前指導の実施。 ・体力向上プロジェクト 中津小学校授業研修 	<ul style="list-style-type: none"> ●好きを増やす《実施・実践》 ・体力テストの実施と分析 ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・「体育好き？」アンケートの実施 ・駅伝・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」5分間走の実施。 ・体力向上プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ●3か年計画の総括・検証《結果》 ・年間授業計画の見直し ・補強運動の充実。柔軟、体幹トレーニング、バランストレーニングを補強運動に積極的に取り入れる。 ・マラソン大会の実施。 ・クラスマッチでの球技の実施。 ・小中連携としての「走って走って日本縦断」5分間走の実施。 ・体力向上プロジェクト
支援教育の充実				

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

・もっとも正答率の高かった設問

「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる」

・もっとも正答率の低かった設問

「封筒の書き方を理解して書くことができるかどうかをみる」

・もっとも無解答率の高かった設問

「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」

・正答率が全国平均より大幅に上回った設問

「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる」

分析

結果は概ね良好であり、全国平均の正答率を上回った。「言語事項」に関しては、良好な結果であった。

問題においては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」すべて良好であった。特に文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができるかどうかや書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる問いの正答率が高く、この分野に関してはかなり高い知識がみられた。ただし、目的に応じて文の成分を考えて適切な文を書く力、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができる（話すこと・聞くこと）の理解に課題がみられた。

今後は、引き続き基礎を大切にした授業を展開し、語彙力や考える力、書く力を培っていくとともに、書写指導にも真摯に取り組みたい。

数学

(領域ごと)

①数と式

良好な結果であった

②図形

良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

○もともと正答率の高い設問

「方眼を数え、三角形の平行移動の距離を求める」

○もともと正答率の低い設問

「2台の容量が同じ冷蔵庫の価格と電気代による使用年数の総費用の損得について、式で解くか、グラフで解くかを選び、説明する」

○もともと無解答率の高い設問

「読書時間の平均値が最頻値であることが違うことを、ヒストグラムの特徴をもとに説明する」

○もともと無解答率の低い設問

「 a 、 b が正の整数のときに四則演算による結果が正の整数にならないことがあるものをすべて選ぶ」「2枚の硬貨を投げ、2枚とも表が出る確率を求める」「図形の性質を考察する場面において、反例の存在に気づき、正しい言葉を選ぶ(反例の意味を理解しているかどうかをみる)」

分析

数学は、「関数」「資料の活用」領域において概ね良好な結果、「数と式」「図形」領域において良好な結果であったが、設問ごとにみると「比例・反比例」と「確率」の問題で全国平均を下回り、領域ごとに見ても「関数」と「資料の活用」で他の領域に比べ、正答率が低くなっている。また、全国的に見ても同じだが、選択式や短答式の問題に比べ、記述式の問題の正答率は下がる結果となった。無解答率においても、記述式の問題が高くなっている現状があり、そこに課題がある。さらに、学力高位層と学力低位層の割合の推移を見ると、低位層の割合が高く、高位層の割合が低くなっているため、低位層の学力をどのようにして底上げしていくかが課題である。

今後の授業では、関数関係を見いだしたり、物事を数学的に考察し、それを表現することを重点的に指導し、改善を目指す。また、既存の入試問題に併せて問題解決学習やグループワークなどを通じ、思考力や表現力を養い、学力低位層の生徒が主体的に参加するような授業づくりをする必要がある。

英語

(領域ごと)

- ①聞くこと
概ね良好な結果であった
- ②話すこと
やや課題が残る結果であった
- ③読むこと
概ね良好な結果であった
- ④書くこと
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式
概ね良好な結果であった
- ②短答式
良好な結果であった
- ③記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- もともと正答率の高い設問
「教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる」
- もともと正答率の低い設問
「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる」
- もともと無解答率の高い設問
「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」
- もともと無解答率の低い設問
「英語を聞いて情報の詳細を理解することができる」「まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる」「まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる」「英語を読んで情報の詳細を理解することができる」「まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる」

分析

「聞くこと」に関しては意欲的な姿勢がうかがえる。しかし、聞いた内容について適切に応じる問題では、正答率は低く、無解答率は高かった。聞くだけにとどめず、内容をふまえて自分の考えや意見を表現させていくことが重要である。「読むこと」に関しては全国平均をほとんど超えているが、読んだ内容について自分の考えを整理して述べることの正答率は低かった。「書くこと」に関しても全国平均をほとんど超えているが、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに大きな課題がある。「話すこと」に関してはやや課題が残る結果であった。

今後の授業では、ペア活動やグループ活動などを通して、自分の考えや意見を書いたり話したり、仲間の考えや意見を読んだり聞いたりするなどのコミュニケーション活動を増やしていく必要がある。

○●経年比較●○

【全体的な傾向についての分析】

正答率は年度によって多少の差はあるが、昨年の結果よりは低い値となった。

しかし、全国平均と比較するとすべての教科で高い結果となった。

なかでも、数学においては全国平均に比べてとても高い値を示している。

無解答率は昨年度より増加した。

【学力高位層と学力低位層、エンパワー(EP)層についての分析】

高位層の割合は年度によって差はあるが、今年度は大変低い結果となった。

低位層の割合は国語で昨年より減少、数学で昨年より大幅な増加となった。

すべての教科において、0～40%層（学力低位層）の値が高くなっており、80%～層（学力高位層）の値が低くなっている。

全体的な学力の低下、また、高位層の減少が明らかとなった。

○●取組み●○

【学力向上に関する取組み】

- ・ 中学校ブロックで連携し、小中合同授業研や公開授業を行う。
- ・ 小中連携により9年間を見据えた授業作りを目指す。
- ・ 校内研修を行い日々の授業に役立てる。
- ・ 生徒主体の授業づくりを進める。
- ・ ユニバーサルデザインに基づく授業づくりを進める。
- ・ 各教科において「好き」といえる生徒が増える取組みを研究する。
- ・ 各教科において「書く機会」を設け、苦手意識の克服を目指す。
- ・ 基礎学力の定着を目指して「鉄人テスト」を行う。
→基礎内容の復習を定期考査2週間前から取り組み、定期考査に向けた学習をスムーズにスタートすることを目指す。「できた」を実感し、前向きに取り組む姿勢を育む。
- ・ テスト計画表「がんばり表」の実施。テスト勉強を計画的に進めるために活用している。
- ・ 既習事項の確実な定着を目指した、定期考査前の補充学習を実施する。
- ・ 活字に親しむ機会を増やすとともに、1日の生活をスムーズにスタートさせるため朝の読書を行う。
- ・ 宿題の提出を徹底するために、未提出者への声かけや放課後の学習指導を行う。
- ・ 学校と家庭で連携し、家庭学習の定着を目指す。
- ・ 長期休暇を利用した、学習指導を行う。

【国語】

- ・ 古文に慣れ親しむため、暗唱して声に出すことに慣れさせる。(百人一首も活用)
- ・ 文章を書くことへの苦手意識をなくすために、様々な場面で書くことを実践していく。
- ・ 語彙力を増やすため、読書活動を生徒に勧めていく。
- ・ 各単元ごとに、内容の確認と応用力の育成のために課題を設ける。

【数学】

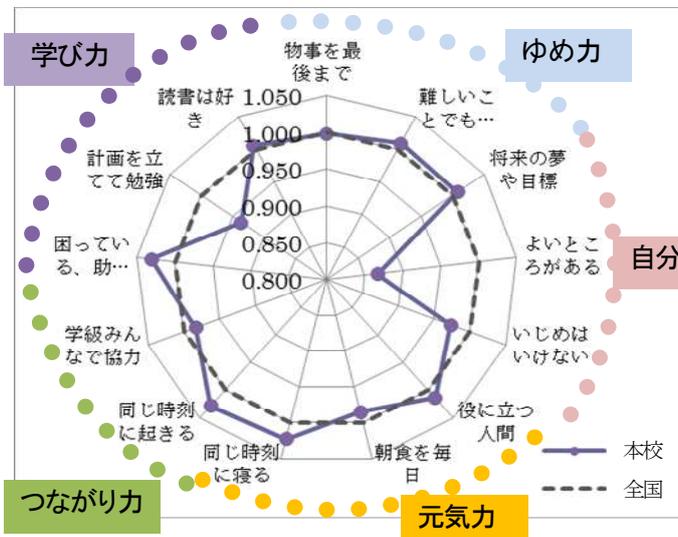
- ・ 基本的な計算力や思考力をつける取組みを引き続き行う。計算演習の授業などを設定する。
- ・ 身の回りの事象を取り上げ、数学的な方法を用いて解決するような問題解決型学習を取り入れる。
- ・ 計算だけではなく記述式問題を増やし、自分の考えや解き方を説明するような授業づくりやテスト作りを進める。

【英語】

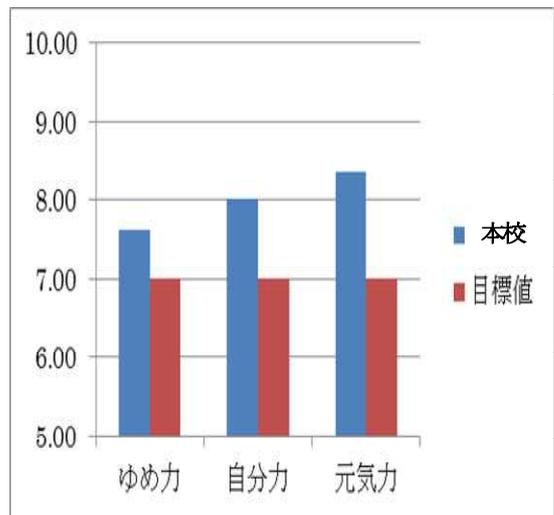
- ・ 各パートごとに単語ノートの提出と単語テストを行い、単語の定着をはかる。
- ・ 基礎的なワークを使用し、基礎・基本の定着をはかる。
- ・ 教科書やTalk&Talkを活用し、暗唱を行い、英語を話すことに慣れさせる。
- ・ ペア活動やグループ活動を取り入れ、コミュニケーションの機会を多く設ける。
- ・ NETの時間を活用し、スピーチ発表やインタビューテストを行う。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



分析

- ゆめ力**…「将来の夢や目標を持っている」は47.2%の生徒しか当てはまると答えず、課題の残る結果となった。「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」は77.9%と概ね良好な結果となった。
- 自分力**…「自分にはよいところがある」は47.2%の生徒しか当てはまると答えず、課題の残る結果となった。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた生徒は72.9%、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒は75.9%となり、良好な結果となった。
- 元気力**…「朝食を毎日食べていますか」では当てはまると答えた生徒は79.9%となり、全国平均は下回ったが、大阪平均よりは上回る結果となった。「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では全国平均を上回り、良好な結果となった。
- 学び力**…「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」は当てはまらないと答えた生徒が全国平均を上回った。テスト前の学習は定着してきているが、普段からの家庭学習についてはまだ定着できていないことがわかる。家庭学習の定着と提出物・宿題提出の徹底をめざしていく。「読書は好きですか」では、当てはまると答えた生徒が全国平均を上回り、毎日の朝読が定着し、読書好きを増加させていると言える。

取組み

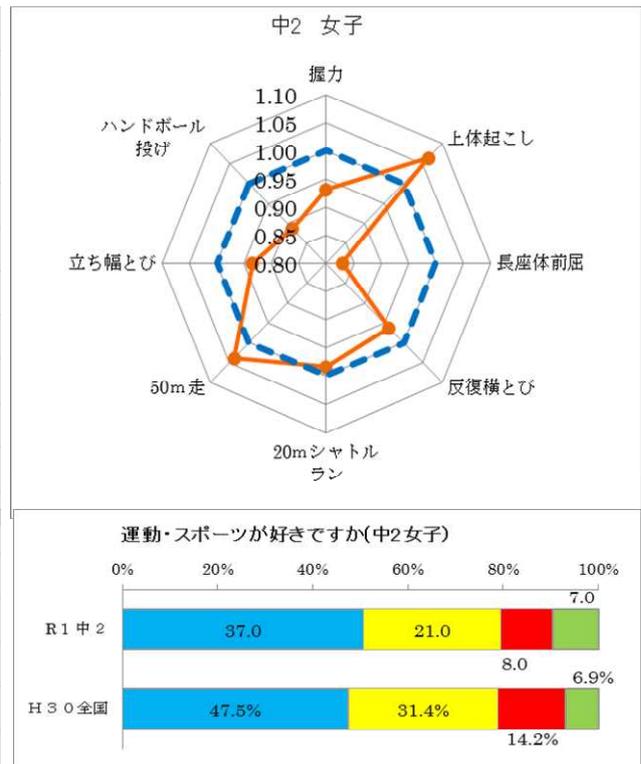
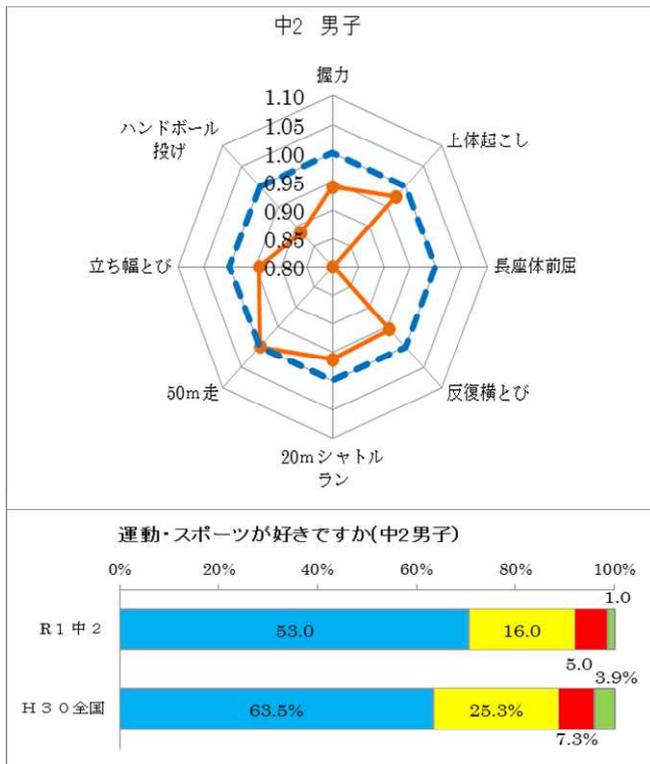
- ①人権教育の充実と深化
 - ・教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等、全教育活動の中で、人としての生き方を考える。
 - ・自分も仲間も大切にし、互いに支え合い励ましあい高めあう生徒集団の育成をめざす。
- ②学び力の向上
 - ・「学力向上に関する取組み」に沿って進める。
 - ・学校と家庭で分析結果を共有し、家庭学習の定着と宿題提出の徹底をめざす。
 - ・学校生活全体で「学ぶ楽しさ」や「学ぶ喜び」、「学ぶ厳しさ」、「学ぶ大切さ」などを体験し、「学ぶことが好き」という生徒が増える取組みを研究する。
 - ・学校生活全体で「書く機会」を取り入れる。
- ③生活指導の充実
 - ・保護者や地域と連携を深めるとともに、生徒が安心して過ごせる学校づくりをめざす。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (中2)

女子 (中2)



■好き ■やや好き ■やや嫌い ■嫌い

分析

男子は『長座体前屈』、『ハンドボール投げ』、『握力』、女子も同様『長座体前屈』、『ハンドボール投げ』、『握力』の数値が他に比べて低く、柔軟性と投力、筋力において課題がある。

そのなかでも、男子の『50m走』では、全国平均を上回る結果となっており、女子でも『50m走』、上体起こし』の数値は全国平均を大きく上回っている。

運動に関する意識の調査では、『運動・スポーツが好きですか』の質問に対して、「好き」または「やや好き」と答えた生徒が、男子では69.0%、女子では56.0%と、全国平均の数値よりも上回り、昨年度よりも良好な結果となった。

自ら積極的に運動やスポーツに親しみを持って取り組むことのできるよう、教材研修を進めていく必要がある。ボール遊びや体を動かして遊ぶことのできる場所が減ってきている今、学校体育のなかで多くの領域の運動を積極的に挑戦し、生涯にわたって続けられる運動を見つけ実践していくことが必要だといえる。

取組み

- ・新体力テストを継続して実施し、個々の体力を分析・検証する。また、小学校からのデータを引き継ぎ分析・検証する。
- ・毎時間の体育授業時に実施している『補強運動(ランニング・腕立て・腹筋・背筋・馬跳び)』の充実を継続し、正しいフォームで実施していく。
- ・体幹トレーニングを積極的に取り入れる。
- ・柔軟を取り入れる。
- ・授業時の球技のときに『投げる』動作の練習を積極的に取り入れるようにする。
- ・マラソン大会を継続して実施する。
- ・年間授業計画に、球技種目を積極的に取り入れるようにする。
- ・クラスマッチの種目に積極的に球技を取り入れるようにする。
- ・授業で長距離走を実施し、タイムトライアルも積極的に取り入れるようにする。
- ・1・2年生において、マラソン大会を実施し、持久力の向上をめざす。
- ・さまざまな領域の運動を実施し、生涯にわたって運動を続けられるよう手助けする。
- ・小学校の連合運動会の練習のため、陸上部の出前指導を実施する。